

平成28年 2月10日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 へ り オ ス
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鍵 本 忠 尚
(コード番号：4593 東証マザーズ)

大日本住友製薬より再生医療に使用可能な iPS細胞マスターセルバンクの受領に関するお知らせ

当社は、平成28年2月9日、当社のiPS細胞由来網膜色素上皮細胞に関する共同開発の国内パートナーである大日本住友製薬株式会社（以下、大日本住友製薬といたします。）から、再生医療に使用可能なiPS細胞を用いて作製したiPS細胞マスターセルバンクを受領しましたので、これをお知らせ致します。

当社はiPS細胞を用いた再生医薬品（以下、iPSC再生医薬品といたします。）の開発を中核的な事業領域と位置付けて事業を推進しております。iPSC再生医薬品の当社第1号製品は、目の難病である加齢黄斑変性を対象疾患として、国内において大日本住友製薬と共同開発を進めています。

iPSC再生医薬品は、老化等の原因により機能が衰えた細胞を、iPS細胞を分化誘導して作製した新しい細胞に置き換えることにより機能回復を図るという新しいコンセプトの医薬品です。加齢黄斑変性は網膜色素上皮細胞の老化が原因と考えられており、当社と大日本住友製薬は、iPS細胞を分化誘導して作製した網膜色素上皮細胞を懸濁液としたiPSC再生医薬品の治験準備を進めています。

大日本住友製薬は平成27年8月6日、再生医療に使用可能なiPS細胞の親株（以下、親細胞といたします。）を京都大学iPS細胞研究所（所長・山中伸弥教授）から受領しています。大日本住友製薬で製造されたiPS細胞マスターセルバンクとは、この親細胞を培養して増殖させた後に小分け貯蔵したものです。当社は受領後、凍結保存により大切に保管致します。当社と大日本住友製薬は今後、iPS細胞マスターセルバンクから取り出したiPS細胞をさらに培養して増殖させたiPS細胞ワーキングセルバンクを作製し、このiPS細胞から前臨床試験や治験用の網膜色素上皮細胞を作製することになります。

今回のマスターセルバンクの受領は、iPSC再生医薬品の原材料となるおおもとのiPS細胞が準備できたことを意味し、当社にとって事業ステージの進展につながる重要なイベントと考えております。

以上

本件に関するお問い合わせ先
株式会社へリオス 広報担当
Mail: pr@healios.jp